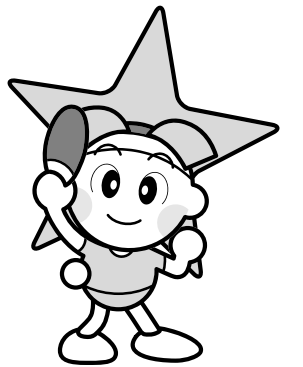


さあ、応援に行きましょう！



昨年11月きびアリーナで開催した全日本卓球選手権大会で、気迫のこもったプレーを披露した総社市出身の大森選手



た所で打つロング、コートに近いところから、バウンドしたボールが最高点に達する前にまっすぐ押し出すようにするショットなど多彩な攻撃があります。

卓球台の中央に張ったネットを挟んで、セルロイド製のボールを打ち合い、得点を競います。1チーム3名の選手が2回ずつ出場できる4シングルス1ダブルスの団体戦で、1試合は5ゲームのうち3ゲーム先取すると勝利となります。1ゲームは、11ポイント先取した方の勝ちになり、得点が10対10になったときは、2ポイント先に取った方が勝ちとなるルールです。

試合は、成年男子と少年女子はリーグ戦、成年女子と少年男子はトーナメント戦となります。昨年の岡山県の卓球総合成績は5位。強化合宿や遠征などで鍛え上げられた岡山県選手団のさらなる活躍が期待されます。なかでも、全日本卓球選手権大会(団体の部)で優勝経験のある大森隆弘選手(東京アート)は、地元総社市出身。大森選手は10月24日(月)第2試合に出場が予定されています。熱い声援を送りましょう。

超高速で打ち合う卓球競技に圧倒

きびアリーナでは、10月23日(日)から27日(木)まで、秋季大会の卓球競技が行われます。

卓球は、何ととっても、速さや回転を交えた激しい打ち合いが見所です。相手の返球が浮いて返ってきたら大きなバックスイングから相手コートに強く打ち込むスマッシュや、ボールにトップスピン(前進回転)をかけるドライブ、コートから離れ

岡山県選手団の活躍が一際目立った、晴れの国おかやま国体夏季大会。興奮冷めやらぬ感動の舞台は、秋季大会へー
10月22日(土)から27日(木)までの秋季大会期間中、総社市スポーツセンター(きびアリーナ・野球場)では、卓球と軟式野球競技の熱戦が繰り広げられます。さらに、11月5日(土)と6日(日)は、障害者の卓球競技も開催されます。

各都道府県を代表する選手が一堂に集まって、日ごろ鍛えた力と技を競い合う我が国最大のスポーツの祭典。選手と一緒に喜びと感動を分かち合いましょ。

また、福原愛選手(青森山田高校)など、日本を代表する選手が総社に一堂に会する国体は、一流のプレーが観戦できる絶好の機会です。狭い台の上で、軽く小さなボールを高速で打ち合う競技は、迫力あるゲーム展開となること必至。瞬間的な判断力、相手の打球を予測した頭脳プレーにも注目です。試合中に

発揮される選手の敏しよ性、集中力、柔軟性には、圧倒されることでしょう。

実力が伯仲する軟式野球チームの熱戦に期待

野球場では、10月23日(日)から26日(水)まで、軟式野球競技が開催されます。

軟式野球は、ゴムのボールを使うことを除けば、硬式野球と同じルールで行われます。試合は9イニング[回]までで、順位決定戦だけは、7イニング[回]までとなります。9イニング(7イニング)を終えて同点の場合は、勝負がつくまでイニング毎の延長戦を行います。

硬式野球に比べて、ボールは

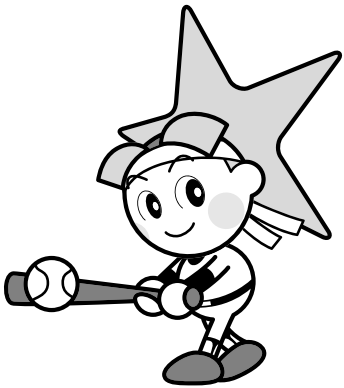
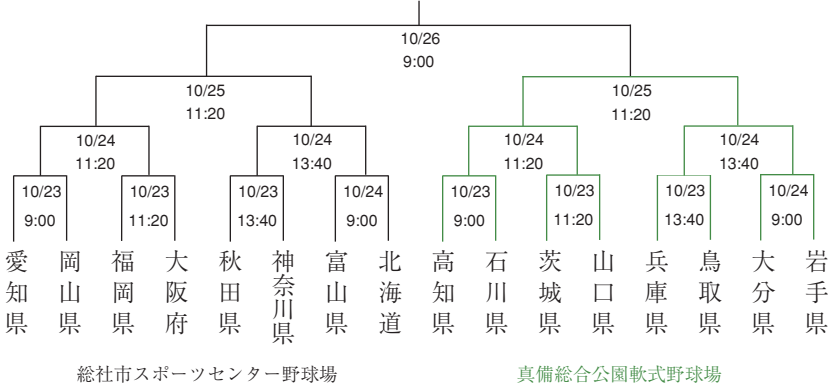
遠くへ飛びませんが、たたきつけると高く上がって、落ちてくるまでに時間がかかります。その間に、1塁まで走ってセーフになることも多く見られます。ランナーが出ているときの、たたきつける打法も注目です。激しい打撃戦や華麗な守備、バッテリーと打者の駆け引き、チャンスやピンチの際の監督の作戦とそれに応ずる選手たちの動きなども見所の一つでしょう。

総社市では、39歳以下で過去に国体に出場したことのない選手で構成(一般B)される8チームが、トーナメント戦で激突します。各チームは、全国の各ブロックを勝ち抜いてきた強豪ばかりです。昨年総合優勝した

埼玉県チームは、関東ブロック大会で敗退。近年連覇しているチームはなく、実力は伯仲していると言えます。

岡山県チームは10月23日(日)、愛知県チームとの対戦が初戦となります。岡山県チームは、中谷和滋主将(誠和マリナーズ)を中心としたまとまりがあり、走・攻・守の三拍子揃っています。エースの坂本憲保投手(岡山市役所)と田内悟之捕手(誠和マリナーズ)を軸に、国体予選大会でも粘り強い試合運びで再三逆転劇を演じてきました。昨年の総合成績21位からの飛躍が期待されます。選手の気合の入った一投一打に、力一杯の声援を送りましょう。

軟式野球競技(一般B)対戦表



昨年5月国体リハール大会として開催された西日本軟式野球大会では、白熱した試合が展開された